

## 聴覚障害児の夢の学校プロジェクト

### —共に学び合う集団活動の取り組み—

代表者 武田 涼花（特別支援学校教員養成課程・3年）他 学生5名 教員2名

#### 1. 活動概要

##### （1）小学生企画

##### 「ボディ・パーカッションを楽しもう」

聴覚障害児は聴こえない・聴こえにくい  
ため、音楽があまり好きでない他、音楽そのものに関心がない子どもが多い。  
ボディ・パーカッションの活動は体の振動によりリズムを感じ、聴覚障害児でも理解して、音楽活動の中でリズムや振動を楽しむことができる。本企画にて、私たち学生スタッフは、講師に山田俊之先生（九州大谷短期大学・教授）を招き、ボディ・パーカッションのワークショップを開くこととした。参加する聴覚障害児をグループに分け、ボディ・パーカッションの発表内容を話し合い、練習を重ね、発表する活動を計画した。

##### （2）中高生企画

##### 「夢を広げよう」

聴覚障害のある中学生・高校生は、社会で活躍する聴覚障害成人との関わりが少なく、進路選択の際に同じ障害のある先輩から助言を得ることが困難な状況にある。そのため、本企画にて、私たち学生スタッフは、聴覚障害生徒が聞こえない・聞こえにくい先輩方の体験談や助言を聞きながら、聴覚障害生徒が自分自身の将来の夢について考える機会を設けたいと考えた。

この企画では、聴覚障害成人4名を講師に招き、思春期の悩みや努力について語る他、進路や仕事について話題提供を依頼した。また、講師は参加者の聴覚障害生徒からの質問に答えていただいた。このような機会を設けることで、聴覚障害生徒のため

のキャリア教育の機会となった。

本来であれば、対面での企画を行い、聴覚障害生徒同士が将来の夢を語り合う交流の場にしたいところであったが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から zoom を使用してのオンライン企画に変更した。

##### （3）新型コロナウイルス感染症拡大の影響

当初は12月に小中学生向けのボディ・パーカッションの企画を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況であったため、開催を中止することとした。オンラインでの開催も検討したが、ボディ・パーカッションの活動を zoom での開催は困難であると判断した。そのため、私たちの AUE チャレンジプログラムの活動は、1月の中高生向けの企画「夢を広げよう」のみの開催とした。

#### 2. 実施状況

##### 【2020年8月】

- ・企画立案
- ・小学生企画「ボディ・パーカッションを楽しもう」の講師を山田俊之先生に依頼した。

##### 【9月】

- ・学生スタッフで zoom 会議を行った。
- ・小学生企画「ボディ・パーカッションを楽しもう」の参加案内を作成し、愛知県・岐阜県立聾学校、愛知県内の難聴学級に郵送し呼び掛けた。

##### 【10月】

- ・小学生企画「ボディ・パーカッションを

楽しもう」講師の山田先生との第1回目の zoom 会議を行った。その後、企画のオープニングでの学生スタッフのボディ・パーカッション活動の演舞の打ち合わせと練習を行った。

- ・中高生企画「夢を広げよう」の講師について、(ジェイテクト)堀田将司様、(日進市役所)大橋志乃様、(豊田紡織)鍵谷拓也様、(映像作家・映画監督)今村彩子様に依頼した。

#### 【11月】

- ・中高生企画「夢を広げよう」の参加を愛知県・岐阜県立聾学校、愛知県内の難聴学級に案内を送付し呼び掛けた。
- ・小学生企画「ボディ・パーカッションを楽しもう」講師の山田先生との第2回目の zoom 会議を行った。
- ・国内の新型コロナウイルス感染症の拡大の状況を考慮して、12月開催の小学生企画「ボディ・パーカッションを楽しもう」の開催中止を決定した。

#### 【12月】

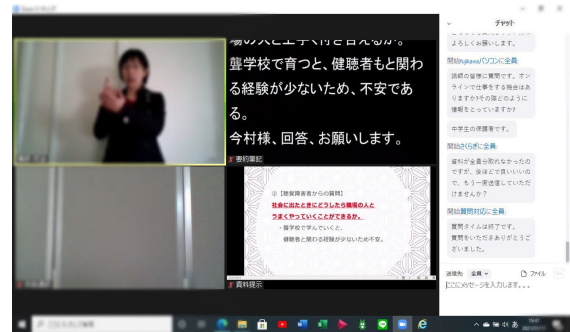
- ・中高生企画「夢を広げよう」の講師の方々と zoom または対面での概要説明と打ち合わせを行った。また、あいち聴覚障害者センターに連絡し、手話通訳者、パソコン要約筆記者の派遣を依頼した。

#### 【2021年1月】

- ◎1月11日中高生企画「夢を広げよう」を開催した。
- ・中高生企画「夢を広げよう」の反省会議を行った。事後報告書を作成し、参加者に郵送した。



写真①：中高生企画「夢を広げよう」の様子



写真②：中高生企画「夢を広げよう」画面

(注) 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、小学生企画「ボディ・パーカッションを楽しもう」は中止した。

### 3. 成果

#### (1) 小学生企画

##### 「ボディ・パーカッションを楽しもう」

2020年12月13日に行う予定であった小学生企画「ボディ・パーカッションを楽しもう」の準備では、運営スタッフ同士が何度も企画会議を開催した。本企画にて、聴覚障害児がグループで話し合いを重ねながら交流を深め、聴覚障害のある人もない人もみんなが音楽を楽しめるような活動を考えていった。新型コロナウイルス感染予防のため、本企画の開催ができなかったが、学生スタッフは、オープニングでのボディ・パーカッションの演舞の練習を重ねることを通して、体を使って音楽を奏でる楽しさ、大勢の仲間の動きに合わせることの楽しさ、集団で一体となって新しい音楽を作り出す楽しさを体験することができた。また、学生スタッフは、聴覚障害児がリズムを楽しむながら音楽を学ぶ手法を理解することができ、新たな気づきを得る良い機会となった。このような学びの成果は、本企画の準備にて丁寧に指導をいただいた山田先生のおかげである。

#### (2) 中高生企画

##### 「夢を広げよう」

2021年1月11日に愛知教育大学第一共通棟212教室で開催された中高生企画「夢を広げよう」では、新型コロナウイルス感染予防のため、zoomを使用したオンライ

ンでの講演を中心とした企画を開催することとなった。オンラインでの開催となったため参加対象者を拡大し、聴覚障害のある中高生とその保護者だけでなく、聾学校や難聴学級の先生方や愛知教育大学の学生も参加し、合計で 38 名（中学生 8 名・高校生 3 名・大学生 6 名・保護者 16 名・教員 5 名）の参加となった。

本企画終了後の参加者の事後アンケートには、「聴覚障害者 4 名の講師のそれぞれの幼少期から青年期までの生い立ちや仕事の経歴を聞くことで、聴覚障害者が困難を乗り越える工夫や方法を学ぶことができ、大変参考になった。」「聴覚障害者 4 名が自分に合ったコミュニケーション方法を選択し、日常生活や仕事を進めていた。手話や音声を使う方や使わない方など、色々なスタイルでコミュニケーションをとっていることを知ることができたのが良かった。」等の記述があった。

また、参加者の 95%以上の方が「本企画について満足した。」という回答が得られた。事後アンケートの自由記述では「今回のような、ロールモデルとなる聴覚障害成人の体験談を聞く場を継続して作ってほしい」という声が多く寄せられた。

以上より、本企画は、参加者が聴覚障害者のキャリア形成について理解を深める機会となったと言える。

運営した学生スタッフとしては、普段とは異なる zoom というツールを使う中で、聴覚障害のある人が話し手の言語情報を理解し、安心して参加できるような情報保障の検討を行った。企画の準備段階で、2 度に渡って、手話通訳者やパソコン要約筆記者の配置の方法や画面への映し方などを試行錯誤してシミュレーションを重ね、改善をしていった。

企画当日の進行では、司会や代表の学生スタッフが zoom カメラの前で話をする際には、必ず音声言語と手話を併用することとした。また、話題提供者の講師が一方向的に話をするだけの形式にならないように、質疑応答の時間を長めに取り、参加者の声をできるだけ反映するように努めた。

その結果、中高生企画「夢を広げよう」は、聴覚障害成人の 4 名の講師の多大な協力もあり、無事に成功を収めることができた。聴覚障害のある中高生にとっても、自分の進路や職業の将来について考える良い機会になったと考える。また、聾学校や難聴学級の先生方や、私たち学生にとっても、聴覚障害のある社会人の職業観、聴覚障害者としてのコミュニケーションの心構えや工夫等の話を聞くことで、聴覚障害児のキャリア教育の指導の在り方について考える機会を持つことができた。

### (3) その他

この 1 年間は新型コロナウイルス感染拡大のため、当初予定していた AUE チャレンジプログラムの企画をすべて実施することができなかった。しかし、このような企画の打ち合わせ・準備・運営が困難な中で、活動の目的を達成するために、私たち学生スタッフは、最大限の努力を重ね、充実した活動を進めることができたと考えている。

## 4. 今後の展望

聴覚障害がある子どもにとって聴覚障害児同士の交流の場や聴覚障害成人の話を聞く機会は、自分のことを理解する上でも大切である。そのため、コロナ禍においてもコミュニケーション手段や交流の方法を工夫することによって、聴覚障害のある児童生徒の体験や交流の幅を広げ、可能性を広げることができるのではないかと考える。

様々なコミュニケーション方法を活用する聴覚障害者全員が内容を理解し、楽しむことができることは聴覚障害児教育における課題である。今回の企画はその課題を解決する一つの糸口となったのではないだろうか。今回の企画をこの場限りのものにするのではなく、学生スタッフは、今後も継続していくこと（または後輩に引継ぐこと）で、聴覚障害児の夢を実現するために、子どもたちの未来の可能性を広げる支援を進めていきたい。

## 5. 決算

予算：400,000円, 残額：135,088円

費目	支出額
○ 消耗品	
スティックのり	390円
模造紙	3,322円
マスキングテープ	2,640円
プロッキー	5,280円
ビニールテープ	5,390円
ホッチキス	1,510円
はさみ	1,325円
封筒一式	11,875円
消毒液	19,200円
ポストイット	494円
ガムテープ	1,255円
切手(84円・140円)	40,236円
A4コピー用紙	2,040円
小計	94,957円
○ 旅費	
講師交通費	7260円
手話通訳士交通費	1375円
要約筆記交通費	3320円
小計	11,955円
○ 謝金	
「夢を広げよう」講演(3名)	60,000円
「夢を広げよう」講演(1名)	50,000円
手話通訳(2名)	24,000円
要約筆記(2名)	24,000円
小計	158,000円
合計	264,912円

## 謝辞

本企画の助成をいただいた学長・野田敦敬先生や副学長・鈴木英樹先生をはじめ執行部の皆さまに厚く御礼申し上げます。

また、本企画を円滑に進めるための助言をくださった学生支援課の職員の皆さまに心より感謝を申し上げます。

## 6. メンバー

番号	学年	氏名	所属
1	3年	武田 涼花	特別支援
2	3年	坂口 沙紘	特別支援
3	3年	柘植 香穂	特別支援
4	3年	辻 明莉	特別支援
5	3年	三浦 千沙	特別支援
6	3年	山本 幸	特別支援
7	教員	岩田 吉生	特別支援
8	教員	大塚 とよみ	特別支援